

## 令和7年度第2回奈良県文化創造ギャザリング議事概要

### 〈現地建替と葺移転の比較について〉

#### ■葺移転の魅力

- ・庭園や自然環境を活かした展示が可能であり、来訪目的となる施設にできる可能性がある。
- ・近年、パーク PFI の議論が活発化している。民間活力を導入するという視点も考慮すると良い。
- ・これまで美術館はホワイトキューブが一般的だったが、海外では工場などの施設を美術館に改修した事例があり、既存施設の改修というのは時代の流れに合った取組といえる。
- ・能楽ホールを活用が可能

#### ■葺移転の課題と懸念点

- ・葺の耐用年数や耐荷重を精査し、必要な機能（安全性、資料動線等）を十分確保できるか検討するべき。
- ・既存建物を活用しても、新築と同程度かそれ以上の費用が掛かる場合もある。
- ・奈良県立美術館の理想像を先に議論し、それを実現するためにどのような機能が必要で、そのためにどのような施設が必要なのかという順で議論を行うべき。
- ・葺のこれまでの土砂災害の有無を確認するべき。
- ・美術作品を展示するためには、一般的な公共建築とは異なる美術館としての環境整備（空調、照明等）が必要
- ・アクセス面では、近鉄奈良駅からの移動手段が課題
- ・委員のご意見を踏まえ、必要な調査を行い、来年秋頃のギャザリングで調査結果を報告し、整備場所を確定したい。（山下知事）

### 〈奈良県立美術館の活動方針について〉

#### ■新しい美術館像の提案

- ・書道や漫画なども活動の対象に加えた方が、多様な県民に向けた取組として良い。
- ・奈良県立美術館の整備は全国的に先進的な事例となる可能性もあるので、例えば、書道や漫画等日本の文化を世界へ発信するなど、従来の美術館にはない新たな取組を検討するべき。
- ・奈良の地域性や歴史性を踏まえた活動方針を検討するべき。過去と現在のつながりを明確にできると良い。また、収蔵品の収集方針についても活動方針の基礎となるため、十分な検討が必要
- ・「食」の要素を取り込むなど、美術館を気軽に訪れてもらい、そこから奈良の誇る文化財等に触れるきっかけにしてもらうことも可能

- ・鑑賞だけではなく様々な活動ができる美術館になれば、より幅広い層のニーズに応えることができる。  
美術館のあり方が急速に変化している中で、未来を見据えた柔軟な活動内容の検討が必要
- ・墨や筆、紙といった伝統的な素材を活用したアートの展開をするべき。
- ・能楽堂を活用したパフォーマンスアートの展開など先端的な取組ができると良い。
- ・美術を中心にしつつ、書道、能楽、漫画等の分野も含めた新規性のある活動方針を打ち出せたら良い。  
今回の意見を参考に来年3月頃にもう一度ギャザリングを開催し、活動方針を固めたい。(山下知事)